

◇は委員、◆は事務局の発言です。

協議 中学校「総合的な学習の時間」参観について

5・6限目に1年生が「総合的な学習」で防災学習を行い、高校4・5年生がファシリテーターとして参加する計画でした。学校運営協議会委員に参観していただいたうえで協議する予定でしたが、インフルエンザ罹患者急増のため、授業を中止しました。

◇8月22日から24日、高校生対象に防災学習のファシリテーション学習を行った。受講した高校生は、中学1年生の「総合的な学習の時間」に行う防災学習にファシリテーターとして参加し、意見を引き出した。中学生の防災学習は2回の計画で、1回目を10月18日に実施した。学習の後で高校生には、「話し合いの場を積極的に自分がつくることができたか」「中学生に話題を振ることができたか」「聞き役に回ることができたか」等、5つの視点で自己評価・振り返りをしてもらった。本日実施していれば2回目になるので、自己評価が高くなる可能性があった。高校生は自分たちが話を引き出す、話を聞くことの大切さを学んでもらえたと思う。

◆本日は、中学生の時に東日本大震災で被災した方をゲストスピーカーとして招き、被災体験を聞いて、中学生が話し合う予定だった。

◇改めて被災体験を聞くような予定はあるのか。

◆年間の予定もあるため、代わりの時間を取れるとはこの場で申し上げることはできない。中学生と高校生と一緒に勉強する場面は多くないので残念ではあるが、御了承いただきたい。

報告1 中学校・高校の地域活動について

中学校・高校から報告を聞いた後、協議しました。

◇11月25日に開催された「ふれあいフェスティバル」に、私も関わった。川島中高や鴨島第一中学校の生徒さんに来てもらった。生徒たちは子供に「こんな本もあるよ」など積極的に話しかけ、明るく活動していた。

◆吉野川市社会福祉協議会が、夏休みにボランティア養成講座を開催している。この講座に本校の生徒が10名を超えて参加している。受講した生徒は「ふれあいフェスティバル」にボランティアとして参加しなかったが、学んだことを実践することが大切なので、来年度は「ふれあいフェスティバル」など、ボランティアを講座で学んだ生徒が実践できる場をつくっていききたい。

◇吉野川市の中に一本化した組織がない。担当部署から各課に発信できるようにすればいいが、学校からも頼んでほしい。

◆10月に吉野川市が「こども DO まんなか会議」を初めて開催し、高校生4名が参加した。地域住民の方だけでなく、県立ではあるが吉野川市の生徒が多いこともあるので、今後吉野川市との連携も深めていきたい。

- ◇「グローバルな視点をもって地域社会に貢献できる力を育成する」とのスクール・ミッションに向かっていることに、ブレがないと感じた。中学校は昨年度「総合的な学習の時間の研究大会」を開催したので、その成果が今年度に反映されて更に良くなっていると感じた。
- ◇「第19回吉野川市中学校人権教育研究大会」の研究紀要に子供食堂のことが記載されているが、他にも地域で行っている活動に関連するような内容が出てきたらいいという印象をもった。例えば、委員が関わられている防災学習に人権が出てくる。すべての教育活動に人権の視点があるので、実際に行っていることがより関連付いていくと、成果が上がってくる。
- ◇中高の協働学習は本校の大きな特徴の1つと思っている。中学校1年生が高校4・5年生の姿を見て自分の将来像を描き、こうなりたいという気持ちをもつ。4・5年生は、学んだことを中学生の前で発表でき、自己肯定感を高めることができる。子供たちをよりよく育てる、川島中高の大きな方策の1つ。協働学習をますますよくして、伝統になってほしい。
- ◇報告では、学校運営協議会委員、それ以外の地域の方との関わりが色濃く出ている。報告を聞いたときに、いろいろな方が関わってくださっている、活動が多様になっていると分かる。継続することで、子供たちのためになるような活動になる。その元になっている1つが、学校運営協議会。行政との関わりのお話もあったが、更に取り組みを進めていく上で役立つ。ボランティアは参加する生徒に限られている。参加していない生徒に、地域社会への貢献を育成する観点から、参加した生徒の活動を共有する、可能な限り参加機会を増やす等、生徒の力につなげていくことを考えてほしい。
- ◆3つ目の観点は、以前にも御指摘いただいた。具現化できていないことは申し訳ない。一部の生徒に限られていることをどう広げるか、中高で考えていきたい。
- ◇「レッツクリーン環境美化活動」について、中高で行っている時期や場所が違う。同じ活動をしているのに中高でバラバラで、もったいない。高校生が考えたことを中学生がどう思うかという協働学習の場をつくれれば、中学生は高校生がこんなことを考えているのかと思え、中学生にとってもいいし、高校生にとっても学びが深まる。
- ◆参加者は環境委員と有志に限られるので、ただ今の御意見のように、環境委員が「総合的な探究の時間」などにクラスで共有し、中学生にも広げることができるか、相談していきたい。

報告2 生徒の主体的な参画による校則の見直し

中学校から見直しの途中経過を報告しました。

高校は見直しの過程、見直し結果を報告しました。

報告に対し、委員から意見はありませんでした。

その他

- ◇川島に住んでいる人にとって、県立川島中高は災害時に避難場所の最後の砦になる。市立小中学校では、水害などの避難場所に対応しきれない、特に水害に関しては避難場所にならないことを生徒たちが想像してくれるような授業展開ができればいいと思う。中高を通して防災学習を進めてほしい。
- ◆ファシリテーター養成講座だけでなく、ホームルーム活動などでも防災学習を進めなければならない。生徒が自分事と考えられるように進めていきたい。防災の生徒の取組として、県教委が防災士の資格取得を進めている。今年度は4年生2名が取得予定である。